

大メコン圏の経済開発と3つの経済回廊

2007年11月

2006年12月にタイとラオスの国境のメコン川に、日本の政府開発援助資金で第2メコン国際橋が完成し、インドシナ半島をベトナムから、ラオス、タイ北部を横断しミャンマーに到達する東西経済回廊がほぼ開通した。

この経済回廊プロジェクトは、アジア開発銀行（ADB）がイニシアティブをとり、1992年から大メコン圏（Greater Mekong Subregion）すなわち、カンボジア、ラオス、ミャンマー、タイ、ベトナムの5カ国と中国の2地域（雲南省・広西チワン族自治区）の総合開発を進めている、GMS経済協力プログラムの一環である。この地域の戦後史はベトナム戦争はじめ混乱の中にあったが、中国の市場経済化、ベトナムのドイモイ政策とともに東西冷



戦の終結、1991年のパリ和平協定によりカンボジア和平が成立したことなど、世界的な政治経済環境の変化で地域協力が可能になった。

GMS の概要

GMS 5カ国・2地域の

総面積は、256.9万 km²で日本の約 6.8 倍。

総人口は、314 百万人で日本の約 2.5 倍

GDP 総額は、3381 億ドルで日本の約 7.0%、ASEAN10 の約 4 割相当である。

	面積	人口	GDP	GDP per capita
	(1,000sqkm)	(1,000)	(US\$:billion)	(US\$)
カンボジア	181	13.8	4.9	362
ラオス	237	5.6	2.5	455
ミャンマー	677	56	9.1	165.9
ベトナム	330	83.1	52.8	635.6
タイ	513	64.8	176.6	2,727.00
雲南省	394	44.4	42.4	954.1
広西チワン族自治区	237	46.6	49.7	1,068.50
GMS 全体	2,569	314.3	338.1	1,075.70

出所)大メコン圏経済協力[2007]

(注) 1)カンボジア、ラオス、ミャンマーの GDP と GDP per Capita、面積は 2004 年の数字。その他は 2005 年。

3つの経済回廊 インフラの最優先プロジェクト

GMS 経済協力プログラムの中で、最優先プロジェクトと位置付けられているのが、東西回廊をはじめとする 3つの経済回廊である。

今回東西回廊がミャンマー側の一部を残して開通したことで、タイのバンコク周辺を始めとする産業集積と、ベトナムのダナンやハノイが陸上輸送路が大幅に改善された。もちろん、関連各国の法整備、通関業務の簡素化などまだまだ多くの改善すべき要因はあるが、現実に大型国際輸送に使用可能となった意義はおおきい。

また、ベトナムのハノイと中国の昆明、南寧、広州などはすでに中国側の自動車道路の整備が進んでおり、国境貿易の拡大に寄与している。

なお、日本政府は官民合同プロジェクトとして、2007 年 10 月から東西回廊を活用した実証走行試験を行っている。<http://www.meti.go.jp/press/20071018006/20071018006.html>

1. 東西回廊 1,450km

ダナン⇄第2メコン友好橋⇄コンケン⇄モーラマイン

2. 南北回廊

ミャンマールート

昆明 ⇄ ハンコク

ラオスルート

1,900-2,100km

昆明⇄ホイ・ハイフォン⇄南寧⇄広州

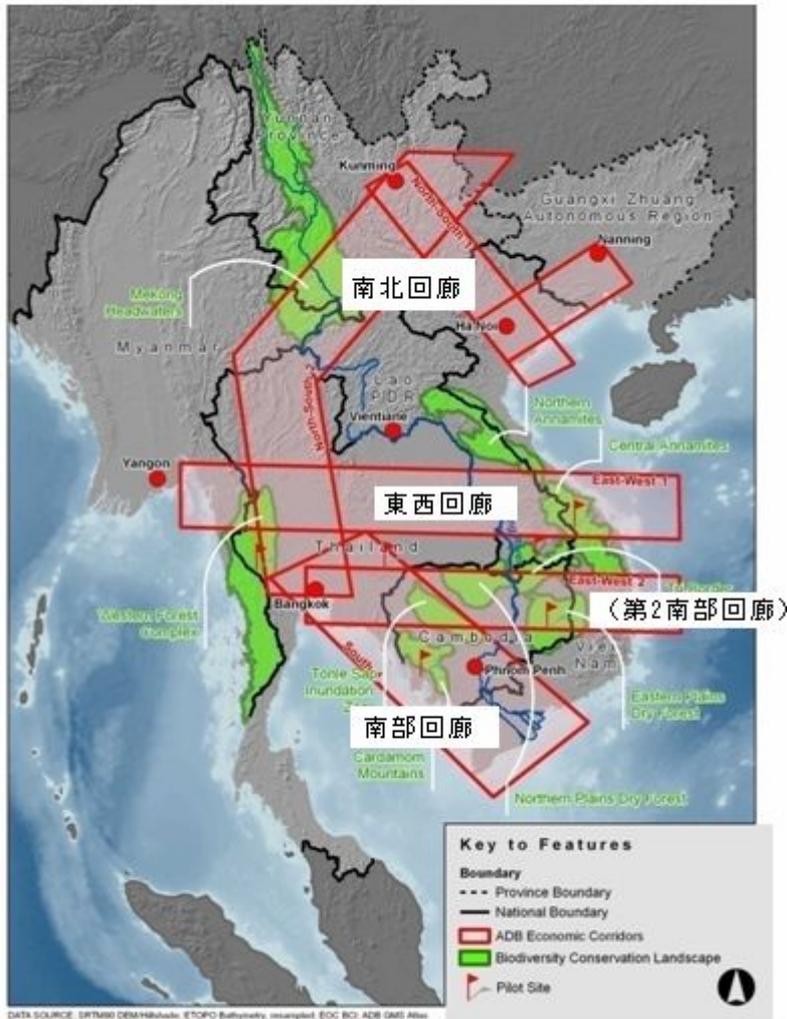
754-853km

426-1,233km

3. 南部回廊

バンコク⇄カンボジア5号線⇄ホーチミン⇄ブンタウ

904km 1,024km



出所) アジア開発銀行ウェブサイト

以上